

芸 能

(このページは原則として敬称を略します)



沢田研二コンサート



沢田研二のコンサートの一場面。41年ぶりに「ザ・タイガース」のメンバーが勢ぞろいした  
＝東京・北の丸の日本武道館

帰ってきたタイガース

同窓会と形容するにはあまりに息の合った演奏だった。ザ・タイガースのメンバーだった森本太郎、岸部一徳、瞳みゆの3人が加わって開かれた沢田研二コンサートの印象だ。会場の東京・日本武道館は舞台後方の客席まで開放され、360度から歓声が飛んだ。41年前の解散以来、音楽から完全に離れていたドラムの瞳が復帰し、昨秋から4人そろって全国30カ所以上を回ってきた。瞳のドラムさばきは「40年近く楽器に触ったこともなかった」との言葉を疑いたくなるほどの「現役」ぶり。遠目にも「おじさん」な森本、岸部が、「シーサイド・パウンド」の間奏で体を揺らし

てステップを踏むのも、見えていた楽しかった。中盤、兄の一徳に支えられながら舞台上で登場した元メンバー・岸部四郎の「若葉のころ」には息をのんだ。足や言葉が不自由な中で1曲だけ披露したその歌声は、透き通っていた。そして、やっぱりジュリアはすごい。力強い歌唱は最後まで破綻なく続いた。「君だけに愛を」で客席を指さすと、指されたあたりから少し遅れて「キヤァ」と歓声が。「怒りの鐘を鳴らせ」では、グループサウンズの甘さだけでない硬派な一面も再確認させた。途中で脱退した加橋かつみだけは参加しなかったが、沢田の「全員そろってザ・タイガースです」という言葉に、今後を期待させた。1月24日、約1万3千人。ザ・タイガースは1971年の同じ日、武道館で解散コンサートを開催した。(斉藤 大起)